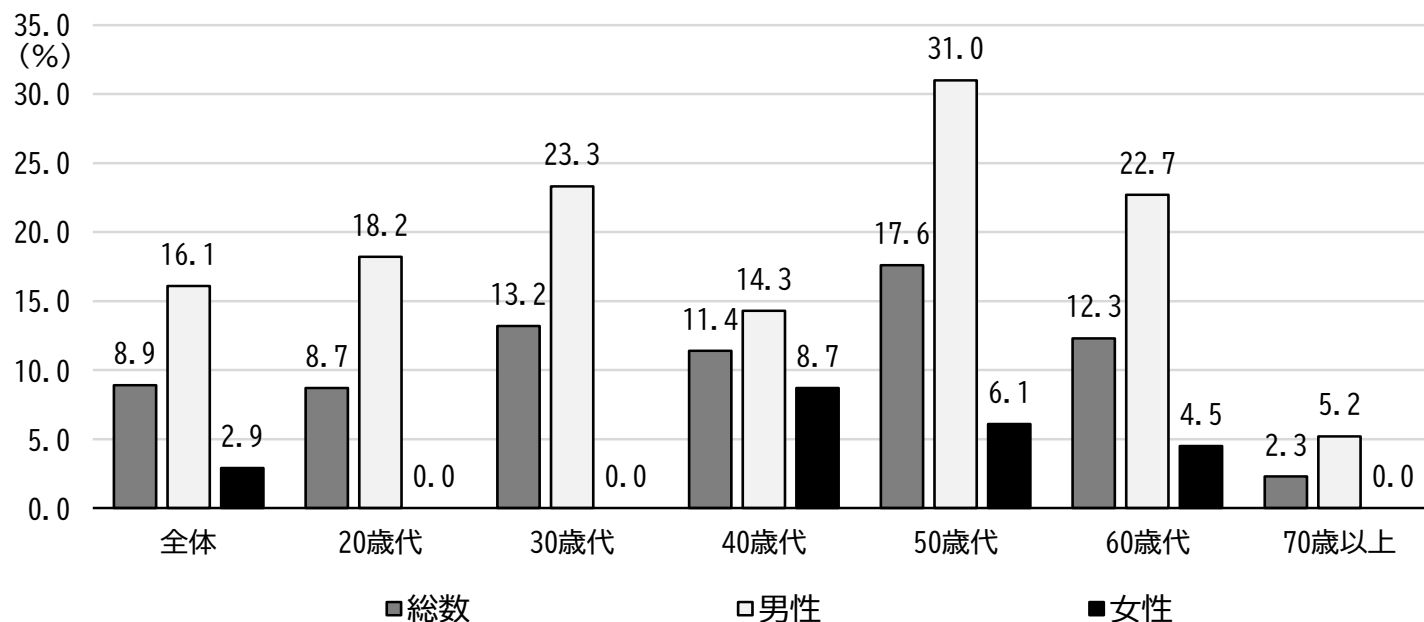


アルコール健康障害に関する富山県の現状



■アルコール健康障害に関する富山県の現状

■生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合(性・年代別)



【生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合】

	2010(H22)	2016(H28)	2021(R3)
男性	15.1%	16.1%	16.0%
女性	7.3%	2.9%	6.3%

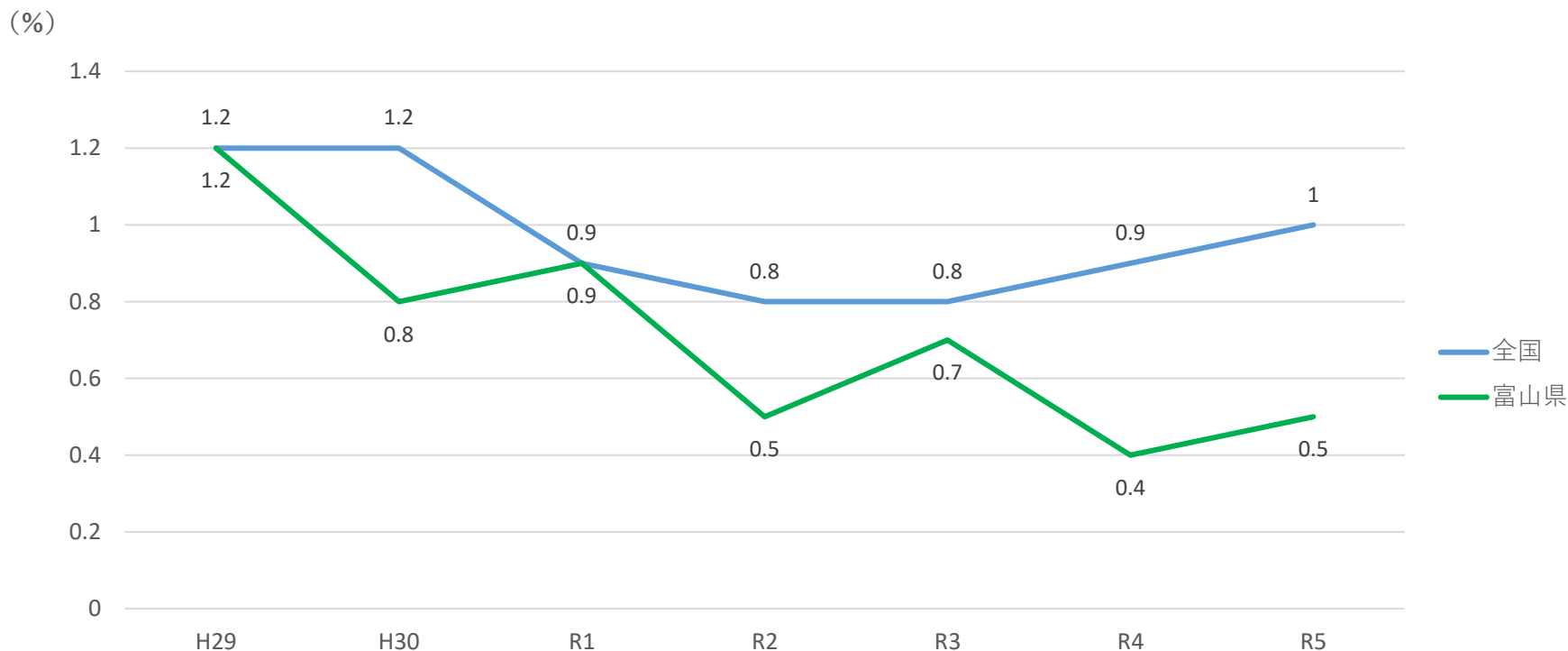
出典：県民健康栄養調査(ただし、令和3年県民健康栄養調査は、調査対象の抽出方法が異なっているため、参考値)

出典：平成28年県民健康栄養調査(富山県)

○生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者の割合は、男性では50代、女性では40代が高い。
○すべての年代において、男性が女性に比べ高い。2021(令和3)年の参考値においても同様の傾向。

■アルコール健康障害に関する富山県の現状

■妊婦の飲酒率の推移

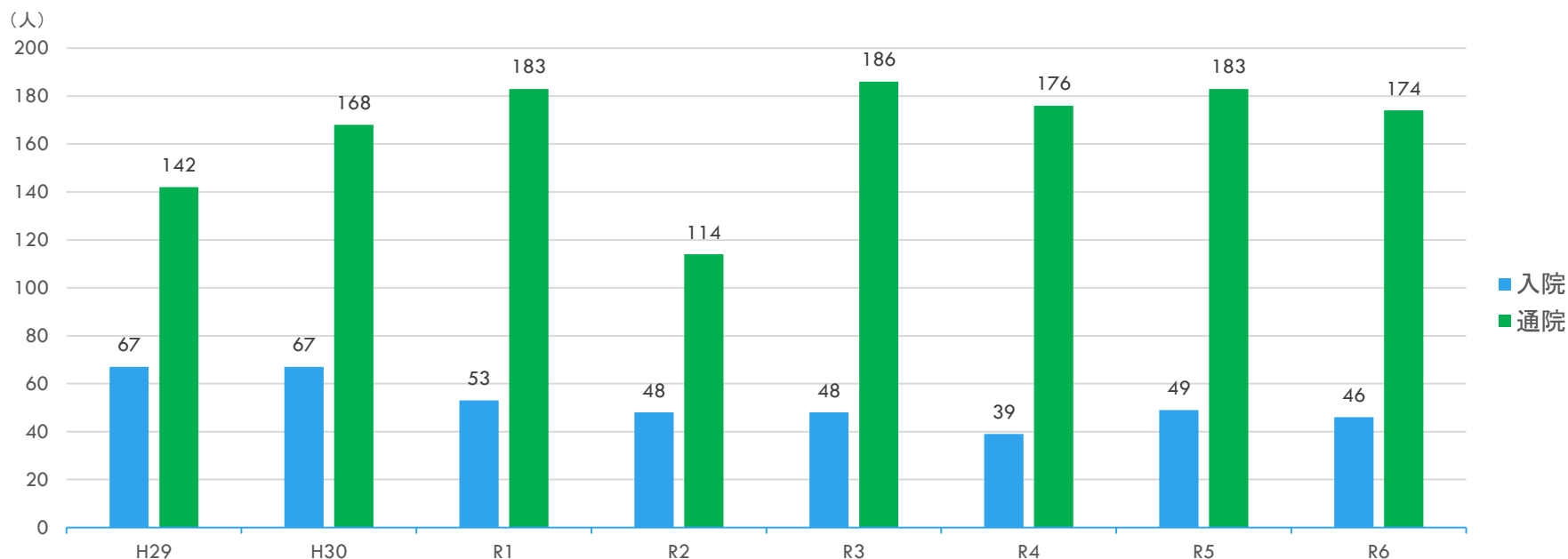


出典：平成29年～令和5年度「健やか親子21（第2次）」の指標に基づく乳幼児健康診査必須問診項目に係る調査

○富山県における妊婦の飲酒率は、減少傾向で推移している。

■アルコール健康障害に関する富山県の現状

■アルコール使用による精神及び行動の障害における入院患者数と通院患者数



出典: 入院患者数 精神保健福祉資料(630調査:平成29年～令和6年)(基準日:毎年6月30日)

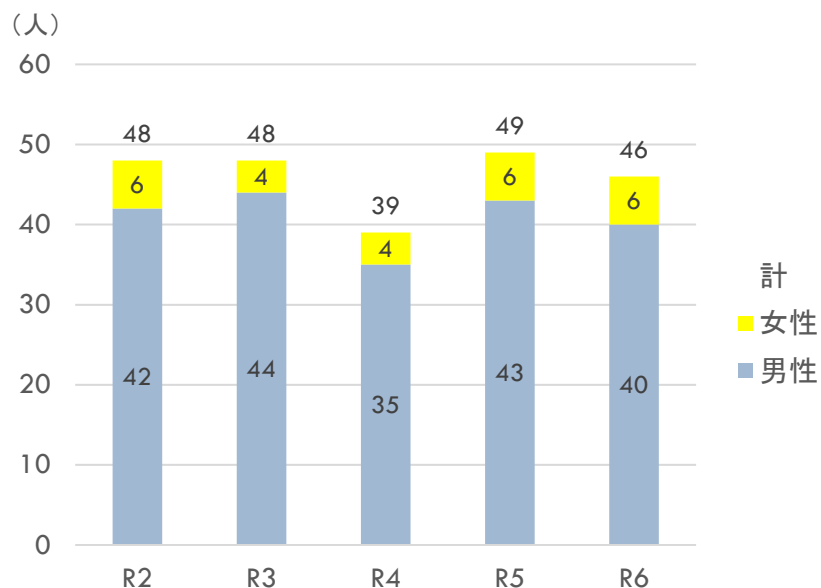
通院患者数 自立支援医療(精神通院医療)受給者のうちアルコール使用による精神及び行動の障害に分類されている者の人数(基準日:毎年3月31日 ※R3のみ2月28日)

- 県内医療機関で入院治療を行っている患者数は横ばいで推移
- 通院患者(自立支援医療を利用)は横ばいで推移
- R2年は新型コロナウイルス感染症の影響により通院患者が減少したと考えられる。

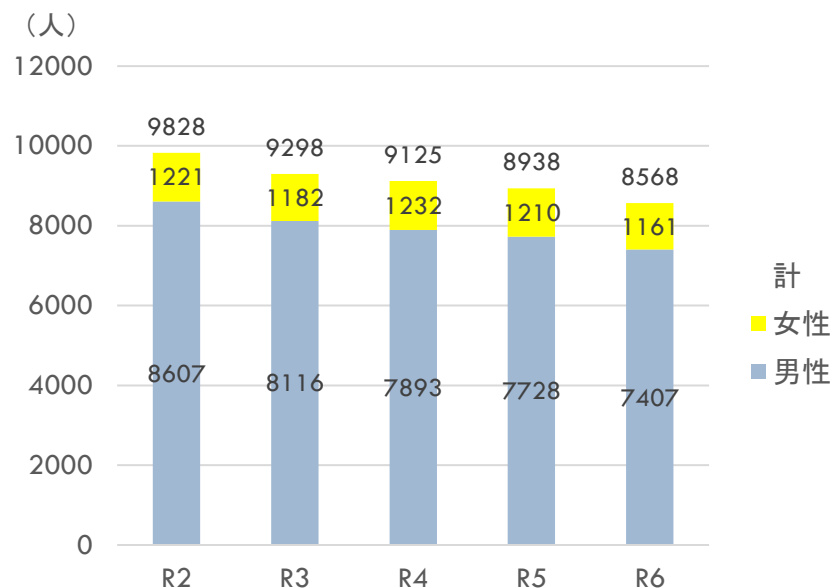
■アルコール健康障害に関する富山県の現状

■入院患者数(主診断:F10アルコール使用による精神及び行動の障害)・男女別

富山県



全国



○富山県・全国ともに、アルコール使用による精神及び行動障害の障害における入院患者は男性が多く、全体の8割以上を占める。

■アルコール健康障害に関する富山県の現状

■入院患者数(主診断:F10アルコール使用による精神及び行動の障害)・年齢別

○富山県

(人)

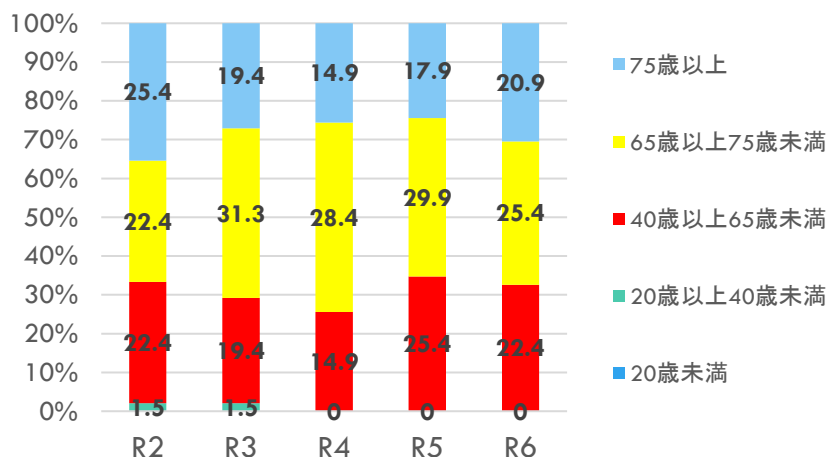
年	総数	20歳未満	20歳以上 40歳未満	40歳以上 65歳未満	65歳以上 75歳未満	75歳以上	不明
R2	48	0	1	15	15	17	0
R3	48	0	1	13	21	13	0
R4	39	0	0	10	19	10	0
R5	49	0	0	17	20	12	0
R6	46	0	0	15	17	14	0

○全国

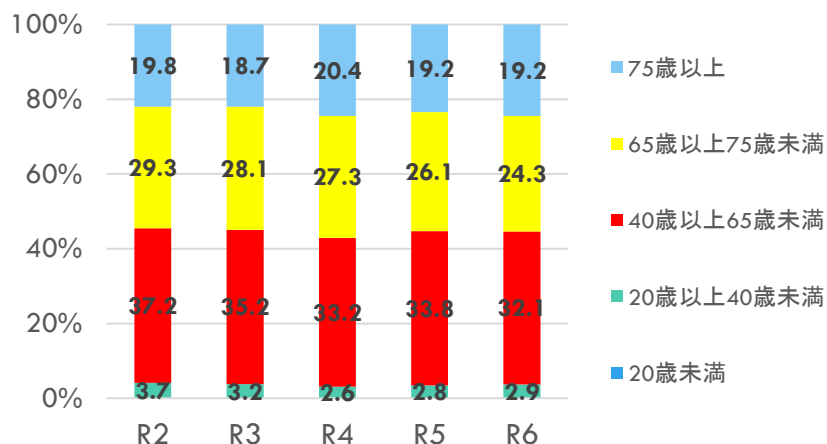
(人)

年	総数	20歳未満	20歳以上 40歳未満	40歳以上 65歳未満	65歳以上 75歳未満	75歳以上	不明
R2	9,828	2	399	4,061	3,201	2,165	0
R3	9,298	5	349	3,839	3,066	2,039	0
R4	9,125	3	286	3,624	2,980	2,232	0
R5	8,938	3	307	3,689	2,844	2,095	0
R6	8,568	2	316	3,501	2,658	2,091	0

富山県



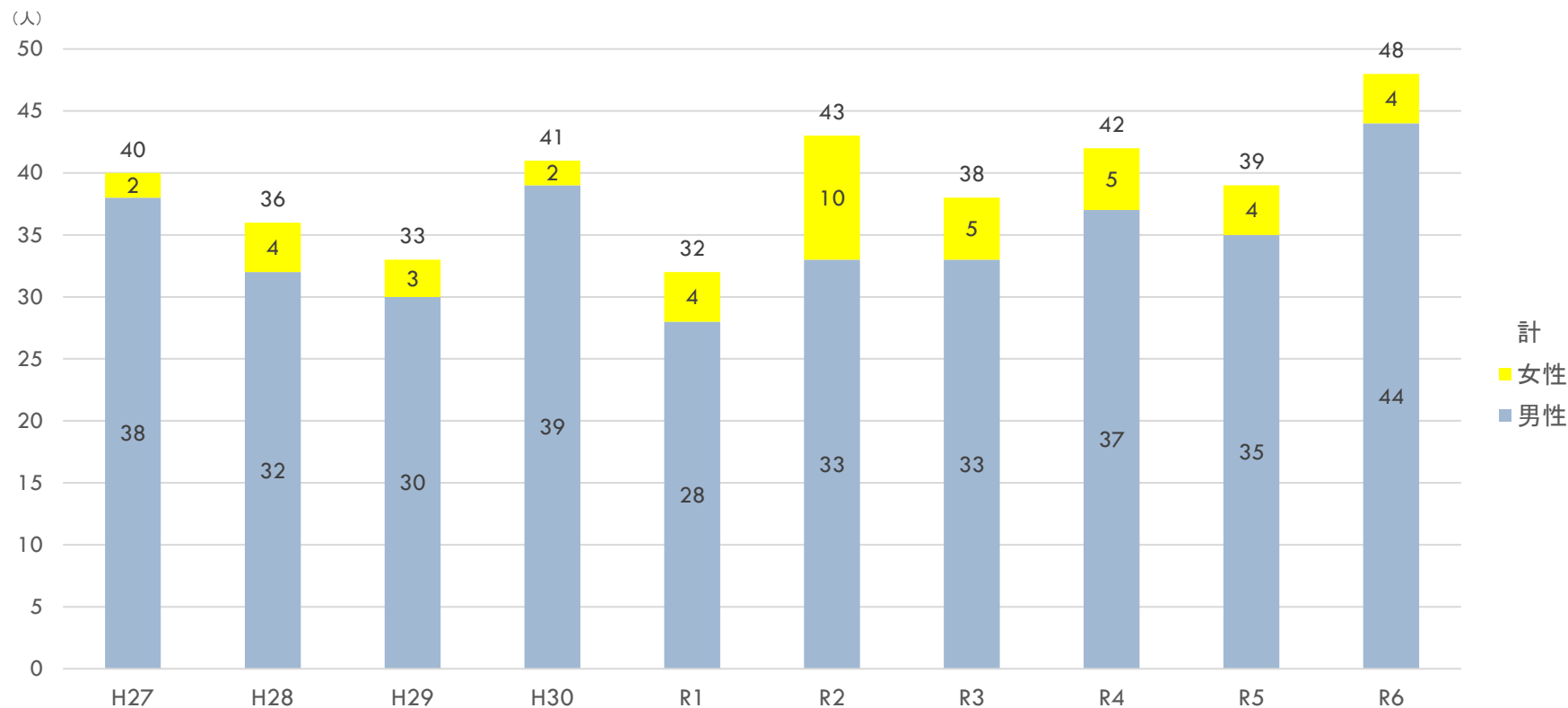
全国



○富山県におけるアルコール使用による精神及び行動障害の障害における入院患者は40歳以上が大半を占め、全国と比べ65歳以上の占める割合が高い。

■アルコール健康障害に関する富山県の現状

■富山県内のアルコール性肝疾患の死亡者数



○富山県では、アルコール性肝疾患による死亡者数は、横ばいで推移しており、直近のR6はR3(現計画基準年)と比較して増加している。男女別でみると、男性が大半を占める

出典：人口動態調査

アルコール健康障害に関する富山県の取組み



■アルコール健康障害に関する富山県の取組み

■普及啓発活動

- ・アルコール関連問題啓発週間事業
富山駅等で啓発物品（メモ帳等）を配布（断酒会と共同での街頭啓発活動）
- ・啓発普及パンフレット「お酒について知っておきたいこと」作成し行政機関、医療機関等に配布

■依存症専門医療機関、依存症治療拠点機関の選定

- 1 目 的 地域で依存症の適切な医療を受けられることを目的に、富山県依存症専門医療機関・依存症治療拠点機関選定要綱を定め、選定。
- 2 選定医療機関（R 8. 1 現在）
【依存症専門医療機関】 谷野呉山病院、アイ・クリニック※、独立行政法人国立病院機構北陸病院
【依存症治療拠点機関】 谷野呉山病院、アイ・クリニック※（※アイ・クリニック令和8年1月31日閉院）

■アルコール健康障害対策関係者会議

- 1 目 的 本県におけるアルコール健康障害対策を総合的かつ計画的に推進
（以下の事項について協議）
 - ・県アルコール健康障害対策推進計画の検討に関すること
 - ・効果的なアルコール健康障害対策の検討に関すること
 - ・アルコール健康障害対策に係る関係機関及び関係団体との連携に関すること
 - ・その他アルコール健康障害対策の施策の推進に必要な事項に関すること
- 2 出席者 関係団体、関係機関の職員、学識経験者 等
- 3 開催回数 年1回

■アルコール健康障害に関する富山県の取組み

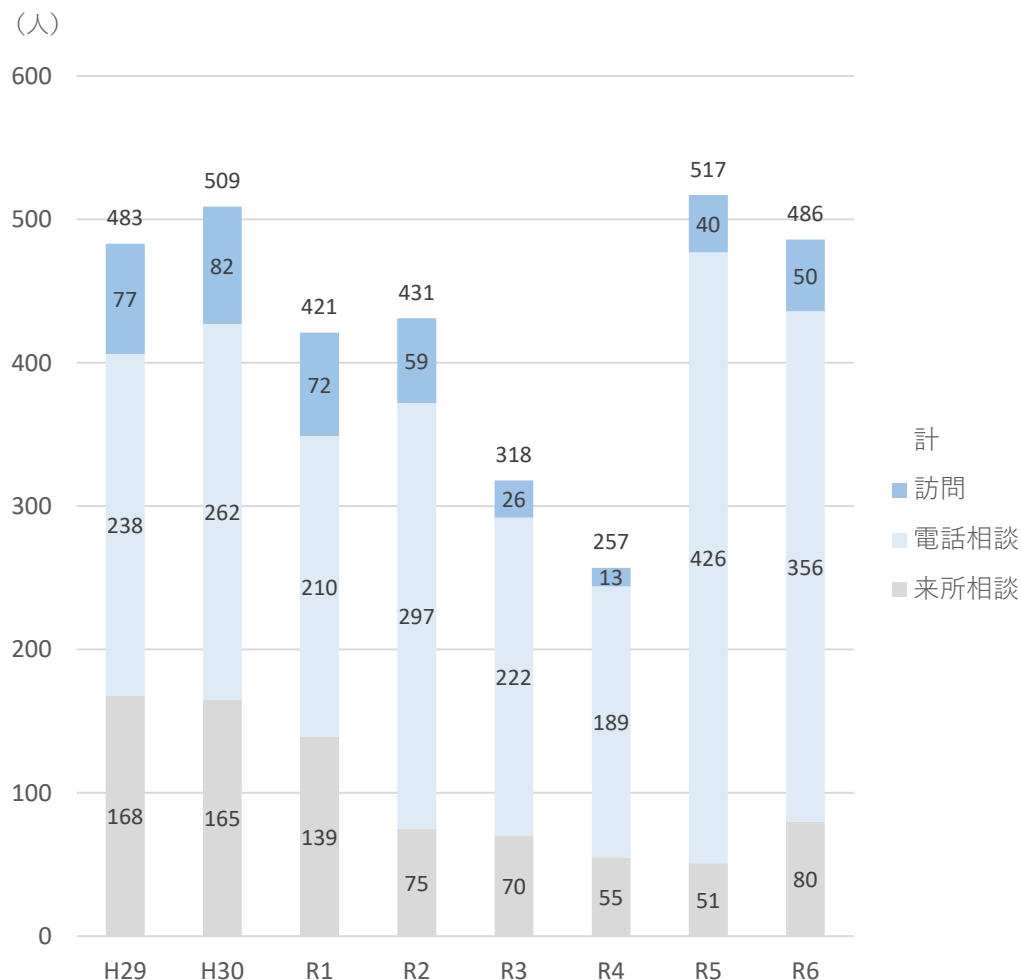
■かかりつけ医依存症等対応向上研修(県医師会委託)

年度	テーマ・講師	参加人数
R 4	講演 「アルコール依存症における一般診療医と精神科医の連携」 講師 藍里病院 副院長 あいざと会依存症研究所 所長 吉田 精次	51名
R 5	講演 「あなたにもできる！依存症診療のはじめ方 ～どう見たて、どう診るか～」 講師 独立行政法人国立病院機構さいがた医療センター 院長 佐久間 寛之	59名
R 6	講演 「子どものネット依存と家庭での対策」 講師 富山大学学術研究部医学系 疫学・健康政策学講座 准教授 山田 正明	59名

- 1 目 的 かかりつけ医として必要かつ適切な依存症等の診療の知識・技術、精神科等の専門医師との連携方法、地域における利用可能な制度・社会資源及び依存症が疑われる症例への具体的な対応方法等を習得する
- 2 出席者 医療機関、行政、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等の医療関係者
- 3 開催回数 年1回

■アルコール健康障害に関する富山県の取組み

■厚生センター・保健所における相談件数(アルコール関係)(延人数)



〔受付手段別〕

(人)

年度	来所相談	電話相談	訪問
H29	168	238	77
H30	165	262	82
R1	139	210	72
R2	75	297	59
R3	70	222	26
R4	55	189	13
R5	51	426	40
R6	80	356	50

〔相談施設別〕

(人)

年度	新川	中部	高岡	砺波	富山
H29	122	65	118	42	136
H30	173	96	121	25	98
R1	68	16	180	26	131
R2	70	26	166	25	144
R3	61	8	117	45	87
R4	39	12	70	22	114
R5	281	6	77	9	144
R6	186	19	90	16	175

■アルコール健康障害に関する富山県の取り組み

○富山県依存症相談支援センターの運営

【富山県依存症相談支援センター】

- 1 開設 平成30年5月
- 2 場所 富山県心の健康センター(富山市蜷川)内
- 3 相談業務の内容
 - (1)対象 アルコール・薬物・ギャンブル等の依存状態にある本人や家族等
 - (2)相談方法 電話・来所等による相談
 - (3)相談時間 月曜日～金曜日 8:30～12:00／13:00～17:00
祝日及び年末年始(12/29～1/3)を除く
 - (4)専用電話 TEL 076-461-3957

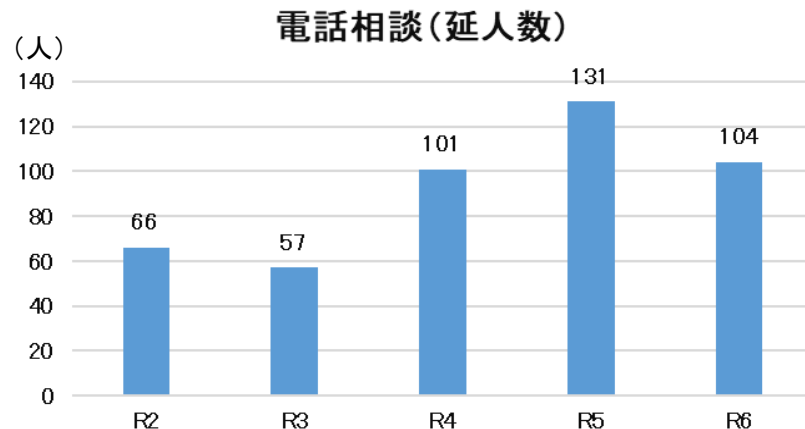
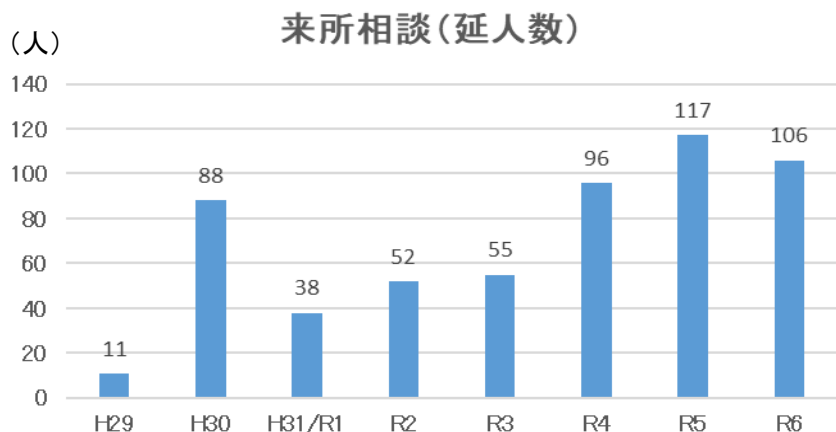
○富山県依存症相談支援センターの事業内容

- (1)情報の収集等
- (2)相談支援(①来所、②電話、③本人回復プログラム、④家族教室)
- (3)連絡会
- (4)普及啓発・情報提供
- (5)人材育成(富山県心の健康センター事業として実施)

■アルコール健康障害に関する富山県の取組み

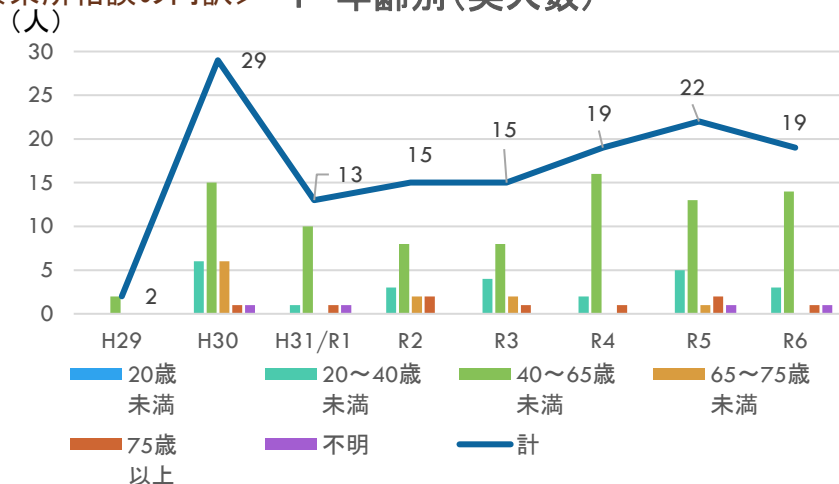
(2) 相談支援

■心の健康センターにおける相談件数(アルコールに関する相談)

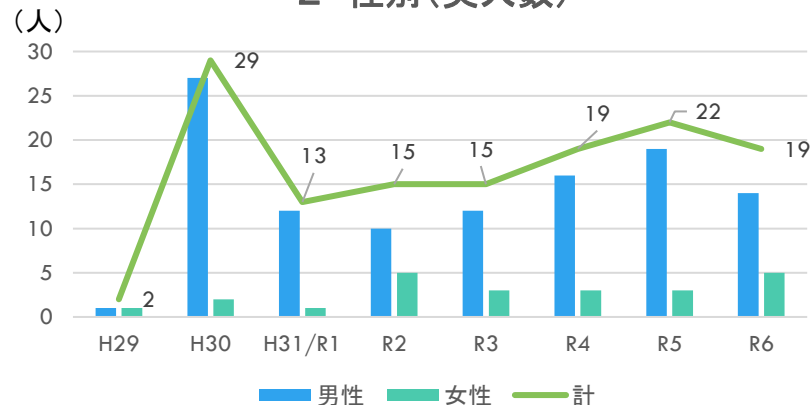


(出典:心の健康センター所報、心の健康センター調べ)

<来所相談の内訳> 1 年齢別(実人数)



2 性別(実人数)



(出典:心の健康センター調べ)

※H30.5 県依存症相談支援センター開設

■アルコール健康障害に関する富山県の取組み

(2)相談支援

■心の健康センターにおける取組み 本人回復プログラム(集団)

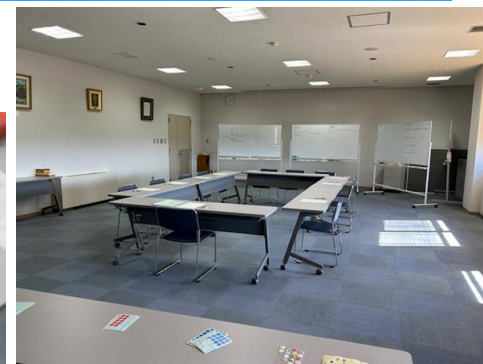
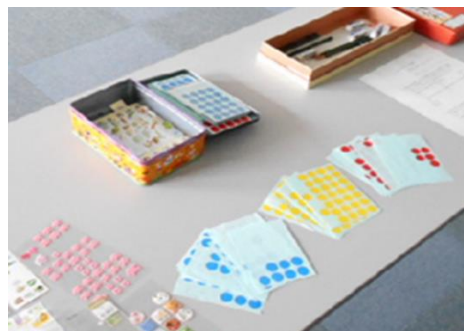
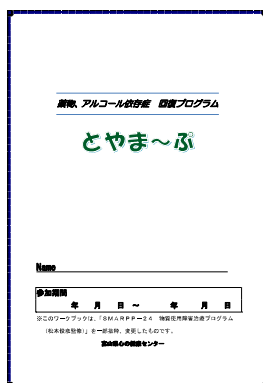
○薬物、アルコール依存症回復プログラム(とやま〜ぶ)

SMARPP※という認知行動療法を用いたワークブックによるグループプログラム ※せりがや病院覚醒剤再乱用防止プログラム英語名の略称

1 目的	(1)本人が仲間と共に薬物、アルコール等に頼らない過ごし方を取り戻す (2)回復者の参加は、ロールモデルの提示となる (3)援助者が依存症援助を学び、援助者同士のネットワークを構築する (4)地域の社会資源のひとつとして、認知行動療法を用いたワークブックによるグループプログラムの普及を図る
2 対象者	下記(1)(2)の2点を満たす方 (1)薬物、アルコール等の使用からの回復を目指す者 (2)事前面接でプログラムを受けることが適当と認められた者 ※治療中の者は主治医から参加同意を得る
3 開催回数	全10回
4 スタッフ	富山県心の健康センター職員(心理職、保健師)、富山ダルクスタッフ

<参加者数(アルコールのみ抜粋)>
(人)

年度	参加者	
	実	延
R2	1	4
R3	4	27
R4	6	49
R5	10	51
R6	4	31



※R2:新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため1クール中止

※R2〜R5までは年2クール(各10回)、R6以降は年1クール(全10回)開催

■アルコール健康障害に関する富山県の取組み

(2)相談支援

■依存症家族教室

- 1 目 的 (1) 依存症について正しい知識を得て、家族としての適切な対応方法を学ぶ。
(2) 家族等が集い、相互の親睦、交流、協力、学習等を重ね、家族の心理的不安、社会的孤立の緩和を図る。

2 出 席 者 依存の問題でお困りの家族や友人 等

3 開催回数 全5回

<参加者数> (人)

年度	参加者
	延
R4	69
R5	57
R6	53
R7	66

(3)連絡会

■依存症支援関係機関連絡会

- 1 目 的 (1) 関係機関の情報共有、意見交換、相互の役割理解
(2) 適切な支援が展開されるような連携体制の構築

2 出 席 者 富山県依存症専門医療機関・依存症治療拠点機関、医療機関、警察、矯正施設、更生保護機関、民間関係団体、保健所・厚生センター 等

3 開催回数 年1回

■アルコール健康障害に関する富山県の取組み

(4) 普及啓発・情報提供

- ・アルコール関連問題啓発週間事業（断酒会との街頭啓発活動）
- ・啓発普及パンフレット「富山県依存症相談支援センター」「アルコールの問題でお困りのあなたへ」作成、配布
- ・ホームページへの掲載（県事業の紹介、自助グループの広報、アルコール関連問題啓発週間のアラート 等）
- ・社会資源に関する情報収集及び相談者への情報提供

(5) 人材育成

■依存症に関する関係機関向け研修会

年度	テーマ・講師	参加人数
R 5	講演 「ギャンブル依存・ゲーム依存について」 講師 独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター 名誉院長 樋口 進	107名
R 6	講演 「依存症の理解と地域連携による支援」 講師 独立行政法人国立病院機構 さいがた医療センター 院長 佐久間 寛之	57名
R 7	講演 「依存症と心理的孤立、人を頼るということ」 講師 地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立精神医療センター 所長 小林 桜児	68名